



国立公文書館	
分類	
	③ ④
配架番号	3 A
	15
	61-2



昭和十八年十二月

第八十四回帝國議會參考書

滿洲に關スル重要問題決定事項蒐錄

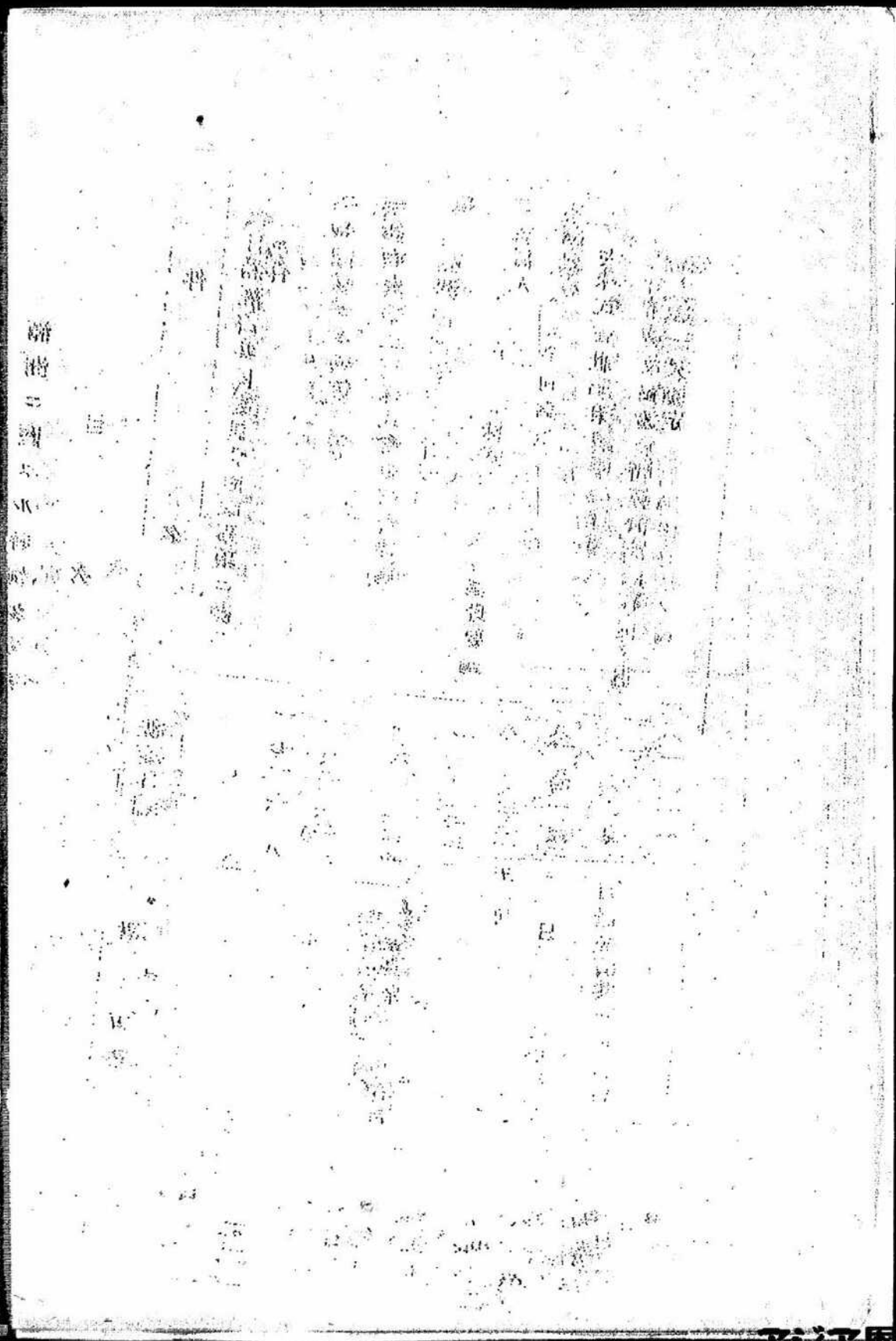
自昭和十七年十二月
至昭和十八年十二月

大藏省 外資局

滿洲ニ關スル特別參考書
目次

件名	決定日附	附議會議	頁
一、日滿經濟共同委員會附議事項ニ關スル件	一七、一八		一
二、滿洲國基本國策大綱	一八、三二、五	日滿經濟共同委員會	四七
三、滿洲火藥工業株式會社增資要綱	一八、三三、一	關係各省打合會 大東亞省滿洲事務局	五〇
四、滿洲鐵鋼價格改訂要綱	一八、三三、一	同	五九
五、吉林人造石油株式會社事業處理要綱	一八、四一、五		六三
六、滿洲國命利調整基本規約	一八、四二、三	日滿經濟共同委員會	七〇
七、株式會社昭和製鋼所增資要綱	一八、四二、三		七三
八、滿洲國及獨逸國間經濟關係存續ノ爲メ第三次協定	一八、四〇、一		七三

元滿洲國緊急農地造成計畫ニ對スル 力撥助ニ關スル件 一〇、昭和十八年度對滿資金供給計畫	一八一、二二二	關 省	八五
(一) 第一、四半期 (四一六月)	一八、三三六	大 藏 省	九八
(二) 第二、四半期 (七一九月)	一八、六三二	同	一〇一
(三) 第三、四半期 (一〇一二月)	一八、九二〇	同	一〇三
(四) 第四、四半期 (昭和十九年 一―三月)	一八一、二二四	同	一〇六



前記協定並ニ附屬書ノ定ムル所ニ依リ本委員會ノ職務權限、組織等ノ概要ヲ掲グレハ左ノ如シ

(一) 設置ノ場所 新 京

(二) 職務權限

(1) 左記事項ニ付日滿兩國政府ノ諮問ニ應シ、其ノ意見ヲ兩國政府ニ具申スルコト

(イ) 日滿經濟ノ運籌ニ關スル重要事項

(ロ) 日滿合辦特殊會社ノ業務ノ監督ニ關スル重要事項

(2) 必要ニ應シ日滿兩國經濟ノ合理的融合ニ關スル一切ノ事項ニ付兩國政府ニ建議スルコトヲ得

(三) 組織

(1) 委員ハ八名トシ日滿兩國政府ハ各四名ヲ任命スルコト

因ニ當初及現在委員ノ顔觸左ノ如シ

(4)當初（昭和十年八月十四日附）任命ノ委員

日本國側

陸軍中將	西	尾	壽	造
大使館參事官	谷	正	之	
關東局總長	大	野	綠	一郎
從四位勳三等	竹	內	可	吉

滿洲國側

外交部大臣	張	燕	卿
實業部大臣	丁	銘	修
財政部大臣	孫	其	昌
國務院總務廳長	長	岡	隆一郎

(5)現在委員

日本國側

關東軍參謀長	笠原幸雄
關東局總長	三浦直彦
大使館主席參事官	花輪謙敬
大東亞事務官	高濱淳

滿洲國側

國務院總務長官	武部六藏
興農部大臣	黃富俊
經濟部大臣	阮振鐸
外交部大臣	李紹庚

(4) 日滿兩國政府ハ右ノ外必要ニ應シ協議ノ上各同敎ノ臨時委員ヲ任命スルコトヲ得

(5) 議長ハ委員中ヨリ互選スルコト

三、委員會附議事項

昭和十年八月二十九日ノ第一回會議以後同委員會ニ於テ終議決定シタ
ル事項左ノ如シ。

昭和十年八月二十九日第一回會議

議長（西尾委員）選舉、議長ノ任期三年
議事規則制定ノ件

同 十一月十三日第二回會議

滿洲國輸出稅改正ノ件

同 十一月廿七日第三回會議

滿洲國爲管理實施ノ件

同 十二月十六日第四回會議

滿洲國及有林伐採、鑛業及滿洲林業股份有限公司設立要綱案ニ關スル件

昭和十一年三月十四日第五回會議

滿洲鹽業株式會社設立要綱案ニ關スル件

同 四月十四日第六回會議

議長（坂垣委員）選舉

同 八月 七日第七回會議

緊急貿易統制ニ關スル件

同 九月廿一日第八回會議

滿洲石油株式會社増資ニ關スル件

滿洲生命保險株式會社設立要綱案ニ關スル件

昭和十一年九月廿九日第九回會議

日滿商事股份有限公司設立要綱案ニ關スル件

同 十月十三日第十回會議

滿洲輕金屬製造株式會社設立要綱案ニ關スル件

同 十一月十六日第十一回會議

滿洲興業銀行設立要綱案ニ關スル件

同 十二月八日第十二回會議

重要商業機關設置案ニ關スル件

昭和十二年六月廿四日第十三回會議

滿洲油化工業株式會社設立要綱案ニ關スル件

同 七月廿九日第十四回會議

滿洲鐵江水力發電株式會社設立要綱案ニ關スル件

同 十一月廿九日第十五回會議

滿洲國貿易統制方針要綱案ニ關スル件

同 十二月十日第十六回會議

滿洲國關稅改正方針要綱及稅率改正案ニ關スル件

滿洲重工業開發株式會社ニ關スル件

同 十二月廿三日第十七回會議

滿洲油化工業株式會社改組要綱ニ關スル件

昭和十三年一月廿九日第十八回會議

鐵鋼類，輸出入許可制度實施要綱ニ關スル件
對第三國關係爲答ニ關スル日滿間協力ノ件
ニ關スル件

同 十月 廿日第十九回會議

滿洲化學肥料工業確立要綱案ニ關スル件

昭和十四年五月十三日第廿回會議

酒類ニ對スル滿洲國內國稅改正ニ伴フ同國
關稅率調整要綱ニ關スル件
康德四年勅令第四六號「貿易統制法」ニ基
ク輸出及輸入ノ制限ニ關スル件「改正要綱
ニ關スル件

同 五月十六日第廿一回會議

株式會社昭和製鋼所改組要綱ニ關スル件

同 五月廿四日第廿二回會議

本溪湖煤鐵公司改組並増資要綱ニ關スル件

同 六月十七日第廿三回會議

滿洲ニ於ケル「ステール」ファイバー
ノ輸入稅率輕減要綱ニ關スル件

同 七月廿七日第廿四回會議

吉林人造石油製造株式會社設立要綱ニ關ス
ル件

同 八月 卅日 第廿五回會議

滿洲大豆專管制度設置要綱並大豆化學工業會社設立要綱ニ關スル件

同 十月十六日 第廿六回會議

日滿商埠株式會社改組要綱ニ關スル件

同 十二月 五日 第廿七回會議

康德四年勅令第四四六號「貿易統制法」ニ基ク輸出及輸入ノ制限ニ關スル件
一改正要綱ニ關スル件

昭和十五年四月 十三日 第廿八回會議

滿洲省達株式會社ニ對スル原野墾闢ノ供給並滿洲國ニ於ケル畜産ノ増進價格統制ニ關スル件

同 六月十八日 第廿九回會議

一ステール・ブール・フアイバーノ輸入税率軽減期間ノ延長ニ關スル件
二密山炭礦株式會社（假稱）設立要綱ニ關スル件

同 七月廿二日 第卅回會議

滿洲鐵安株式會社日本側產業團體特許代理要領ニ關スル件

同 八月廿八日 第卅一回會議

滿洲林業株式會社資本増成及役員報酬改組要領ニ關スル件

昭和十五年九月 九日第廿二回會議

同 十一月 卅日第卅三回會議

昭和十六年二月 五日第卅四回會議

同 三月廿八日第卅五回會議

同 五月 六日第卅六回會議

同 五月 廿三日第卅七回會議

同 七月十六日第卅八回會議

同 七月廿二日第卅九回會議

「貿易統制法及康德四年勅令第四四六號貿易統制法ニ基ク輸出及輸入ノ制限ニ關スル件」改正要綱ノ件

「滿洲江探木公司解散ニ關聯スル處置要綱」
「滿洲造林株式會社設立要綱」ニ關スル件

「電氣事業統制要綱」
「滿洲電氣株式會社增資要綱」ニ關スル件

「日本生命保險團ノ出資ニ依ル投資會社設立ニ關スル件」

「滿洲油化工業株式會社財產處理要綱」ニ關スル件

「滿洲鹽業株式會社增資要綱」ニ關スル件

「滿洲石油株式會社增資要綱」ニ關スル件

「滿洲重工業開發株式會社 增資要綱」ニ關スル件
「滿洲鴨綠江水力發電株式會社增資要綱」ニ關スル件

昭和十六年九月 九日第四十回會議

吉林人造石油株式會社增資要綱ニ關スル件
滿洲國輸入物品中從量稅品ノ關稅額差要綱
ニ關スル件

同 十二月廿三日第四十一回會議

本溪湖鐵礦公司增資要綱ニ關スル件

昭和十七年三月四日第四十二回會議

滿洲興業銀行增資要綱ニ關スル件

同 五月十二日第四十三回會議

製鐵用粘結炭ノ輸入稅免除ニ關スル件

同 七月四日第四十四回會議

滿洲電氣化學工業促進ニ關スル件

同 九月一日第四十五回會議

滿洲合成燃料株式會社增資要綱ニ關スル件

同 十月廿七日第四十六回會議

日滿商學株式會社增資要綱ニ關スル件

昭和十八年四月十三日第四十七回會議

滿洲火藥工業株式會社增資ニ關スル件

同 四月廿三日第四十八回會議

株式會社昭和製鋼所增資ニ關スル件

滿洲國基本國策大綱

(康德九一三六八)
滿洲國政府

序

- 第一章 根本方針
- 第二章 政治綱要
 - 第一 國體，本義顯揚
 - 第二 國防態勢，整備
 - 第三 民族協和，具現
 - 第四 外政，伸張
 - 第五 庶政，刷新
- 第三章 民生綱要
 - 第一 國民，鍛成
 - 第二 厚生，伸暢

第三	勤勞興國，實踐
第四章	經濟綱要
第一	統制方式
第二	農業
第三	林業、畜産業及水産業
第四	礦工業
第五	配給
第六	價格
第七	金融
第八	交易
第九	交通
第十	通信
第十一	水

第十二 都 邑 計 畫
第十三 科 學 技 術

滿洲國基本國策大綱

序

我滿洲國へ建國以來茲ニ本年ヲ以テ正二十年ノ歲月ヲ閱セリ。竊
運ノ隆昌、國勢ノ伸暢、一ニ帝德ノ下民族相協和シ、官民協力以テ
建設ニ挺身セル結果ニ外ナラズト雖モ、マタ悉ク親邦日本、攸義ニ
倚ラザルヘナシ、長クモ 皇帝陛下曩ニ建國神廟ヲ建テ 天照大御
ヲ奉祀シ國本ヲ維神ノ道ニ奠メ親邦ノ 天業ヲ奉養スベキヲ國民ニ
諭シ給フ。洵ニ感誠ニ堪ヘズ謹ミテ 帝旨ヲ承ケ國人ヲ導ケ國力ヲ
盛シテ聖職完勝ヲ圖ルベク庶政亦コノ一點ニ集中指向スルノ要アル
ト共ニ、他面國力ノ根本ヲ培養シ國勢ノ創期的昂揚ヲ期スベキ將來
ノ大計ヲ企畫スルハ蓋シ刻下最も緊要トスルトコロナリ。茲ニ時勢
ノ變遷ニ即應シ、十年ノ治績ニ鑑ミ新ナル理想ヲ下、庶政ノ更始ニ
新ヲ期シ今後國威ノ向フベキトコロヲ明ニシ、ヨツテ以テ官民相共

ニ恪守スベキ道ヲ指示スル所以ナリ。

シカシテ、以下開示スルトコロハ概ネ今後十年間ニオケル施政方針ノ大綱ニシテ、緩急ソノ度ニ應ジ、コレヲ實施セントスルモ特ニ現下非常ノ時局ニ照應シ、マズモツテ北邊疆ヲ固メテ北邊疆ニ備フルトモニ大東亞戰爭完遂ニ總力ヲ結集セントス。從ツテ國民生活ニオイテ一時隱忍ハ克ク耐フルトコロナカレバカラス、國民ハ宜シク政府ノ意圖スルトコロヲ體シマス決意ヲ鞏固ニシ、國政運営ニ積極的貢獻ヲ致サソコトヲ切ニ冀望スル次第ナリ。

第一章 根本方針

施政ノ方針ハ左ノ三ヲ以テ、根本トナス。

- 一、國體ノ本體ヲ顯揚シ國家觀念ヲ涵養シ民族協和以テ國家的團結力ヲ鞏固トラスコトヲ期ス。
- 一、日滿共同防衛ノ本義ニ則リ、國防國家建設ヲ急進スルトス。

カチ大東亞戰爭完遂ニ結果シ。進ンテ大東亞共榮圈必成ニ寄與セ
ンコトヲ期ス。

一、文教ヲ振興シ、産業ノ開拓の補綴ヲ圖ルトトモニ勤勞興國ノ民
風ヲ作興シ、以テ民生ヲ向上シ国力ヲ培養充實センコトヲ期ス。

第二章 政治綱要

強力ナル國防國家體制ノ確立ヲ期シ、政府協和會一體トナリ政治力ノ昂揚施策浸透ノ徹底ヲ圖ルモトス。

第一 國體ノ本義顯揚

我國體ハ惟神ノ道ニ淵源シ日本ト永遠ニ亘リ一體不可分離ノ關係ニアルヲ以テ本義トス。

ニシテ確固不動ノ國體ノ本義ヲ中外ニ顯揚シ施政萬般ノ基本タラシムルモトス。

第二 國防態勢ノ整備

目前共同防衛ノ本義ニ則リ、ガ特殊地位ニ即應シ、益々防衛力ヲ強クシ、國防國家體制ヲ整備シ併テ治安ノ確保ヲ期スルモトス。

第三 民族協和ノ具

國體ノ本義ニ即シテ各民族ノ^符質ヲ陶冶伸張シ、國家自體ニ從ヒ
應能^符臻公ノ見識ニ基キ各民族ヲシテ各々ツテ所ヲ得セシメザリ
和國結ヲ圖ルモトス。

第四 外政ノ伸張

大東亞共榮圈各地域、特ニ大陸隣接諸地域トシテ連繫ヲ緊密ニシ協
力一致ヲ以テ大東亞戰爭ノ完勝ト東亞新秩序ノ必成ヲ期シ、彌
益々同志諸國家トシテ國交ヲ敦カシテ世界新秩序ノ建設ニ貢獻スル
モトス。

第五 庶政ノ刷新

凡ソル施策實行ノ成否ヲ懸ツテ行政運営ノ適非、國民ノ優劣如何
ニ存スルヲ新キナル國策遂行ノ重要條件ニ鑑ミ、行政運営並ニ育英
制度ニ刷新ヲ加ヘ以テ中央地方一體ニテ、實ニ政治ノ確立及ビ
國策ノ的滿ニテ遂行ヲ期スルモトス。

- 一、行政機構ヲ改革スル、其ニ申スルニ、通シ各該管ニ於テハ、指導力ヲ強化シテ、連繫ヲ一層緊密ナラシメ、行政ノ綜合統一化ヲ期シ、特ニ總務廳中心主義ノ徹底強化ヲ圖ルモノトス。
- 二、行政運営方式ヲ改善シ、行政事務ノ簡捷、効率化ヲ期スルニ、共ニ、特殊會社及特殊團體ノ機能ヲ強化活用シ、官民渾然一體ノ協力體制ヲ確立スルモノトス。
- 三、官吏練成ノ強化、責任感ノ遂行、綱紀肅正、信賞必罰ノ徹底ヲ圖リ、併セテ待遇ノ改善ヲ行ヒ、以テ、その奮勵ノ向上ヲ期シ、官界ノ氣風ヲ作興一新スルモノトス。
- 四、地方行政機能ヲ整備強化スル、其ニ隣保組織、農會等政策遂行基盤組織ノ指導育成ヲ圖リ、カツコレガ自興的發展ヲ期スルモノトス。
- 五、警察ヲ刷新カツ整備シ、治安ノ維持ヲ期スルモノトシ、其ニ行營一

致以テ行政ノ實際確保ヲ圖ルモノトス。

六、行政對象ノ實體ヲ明確ナラシメ政策ノ樹立ヲヨビゾノ實行ノ公正的確ヲ期スルヲ以テ調査後進ヲ強化スルトモニ特ニ人籍ヲヨビ地籍ノ急速ナル整備ヲ圖ルモノトス。

七、財政ハ重點且積極方針ヲ採ルト共ニ租税ハ國民ノ國家ニ對スル奉公作用トシテソノ地位ヲ強化スルモノトス。

第三章 民生綱要

文教ノ振興ヲ圖リ國民ノ鍊成ヲ強化スルト共ニ文化ヲ進展、厚生ノ伸暢ヲ努メ國民皆勞興ニ美風ヲ作興シ、以テ國民ノ覺醒向上、國家的團結力ヲ強化シ、併シテ民主ノ發展ヲ期スルモノトス。

第一 國民ノ鍊成
青少年ノ教育及ビ鍊成ニ最重點ヲ置キ、國家觀念ヲ涵養シ健全發
達タル新國民ノ育成ニ努ムルト共ニ、廣ク一般ニ國民鍊成ヲ徹底
強化スルモノトス。

一、教育ノ振興

イ 學校教育

- イ 初等教育ニ重點ヲ置キ、振興充實ニ努ムルモノトス。
- ロ 中等オヨビ大學教育ハ實業教育ヲ主眼トシ、大學ニ付テハ特ニソノ内容ノ充實ニ意ヲ注シテ置クモノトス。

ハ 師導教育ヲ刷新充實スルト共ニ教學機能ノ強化ヲ圖ルモノトス。

ニ 教育者ノ養成、素質向上及待遇改善ヲ圖ルト共ニ教育者尊重ノ氣風ヲ作興スルモノトス。

ホ 學校教育ト各種試験研究機關オヨビ工場、鑛山等トノ連繫ヲ緊密セラシムルモノトス。

2 社會教育

イ 社會教育施設ノ整備充實ヲハカルト共ニ、識字運動ヲ積極的ニ行フモノトス。

ロ 藝文活動ノ輔導ヲラビニ施設ノ整備ヲハカルモノトス。

ハ 各種宗教團體オヨビ教化團體ノ活動ハ國家目的ニ即應セシムル如ク、コレヲ輔導スルモノトス。

青少年ノ鍊成

中堅國民ノ育成ヲ目途トシ、勤勞奉公制度ヲ創設スルトモ、青少年組織ヲ通ジ、ノ鍛成ヲ強化スルモノトス。ナホ青年自興運動ノ健全ナル發展ヲ圖ルモノトス。

三、職域鍛成

一般鍛成ノ外、特ニ責任觀念ノ涵養、職域奉公觀ノ徹底、能率増進ニ主眼ヲ置キ、官公吏、特殊會社職員ソノ他、一般産業従事員ノ日常業務ヲ通ジテ、ノ鍛成ヲ徹底スルモノトス。

四、婦女子ノ鍛成

國防婦人會、女子青年團等ヲ通ジ、婦女子ノ涵養、品位ノ向上ニ努メシムルト共ニ、特ニ滿系婦女子ニ付テハ、勤勞ナラビニ衛生思想ノ普及ヲ圖ルモノトス。

第二 更生ノ伸揚

強健ナル國民ノ育成並ニ快道ナル生活環境ノ創意ニ努メ以テ國民

錄成ノ成果ト相俟ツテ國家興隆ノ基盤ヲ確立スルモノトス。

一、保健衛生

1 傳染病防疫ニ關スル方策ヲ強行シ、特ニペストオヨビ結核ノ豫防撲滅ニ努ムルモノトス。

2 醫療施設ヲ整備擴充シ特ニ醫師ノ増加、醫藥品ノ確保ニ努ムルモノトス。

二、生活改善

1 住宅ノ改善ヲ圖ルト共ニ住宅ノ計畫的増設ヲ圖ルモノトス。

2 我國ノ風土環境ニ適應セル生活様式ノ普及ニ努ムルト共ニ衣食住ゾノ他厚生ニ關スル科學的研究ヲ促進スルモノトス。

三、體力増強

1 集團的肉體鍛鍊、武道オヨビ運動競技ヲ獎勵シ増進化スル

モノトス。

② 阿片、麻薬斷禁ニツイテハ一層ソノ實效ヲ舉グルコトニ努ムルモノトス。

第三 勤勞興國ノ實踐

國民皆勞ノ體制ヲ確立シ、勞働力ノ自給自足ヲ確保スルト共ニ勞働生産ノ向上、勞務管理ノ改善ヲ圖リ以テ我國土建設及ビ産業開發ノ飛躍的發展ヲ備ヘルモノトス。

一、國民皆勞體制ノ確立

勤勞尊重ノ氣風ヲ作興シ、勤勞奉公制ヲ實施スルト共ニ都市洋遊勞働力並ニ女子勞働力ノ活用等ヲ併セ行ヒ以テ國民皆勞體制ヲ確立スルモノトス。

二、勞務統制ノ強化

勞務配置ニツイテハ、事業別配置統制ヲ強化スルト共ニ民族別及ビ性別適正配置ヲ考慮スルモノトス。ヲホ身子兩業使

用人數ヲ制限スル方策ヲ講ズルモノトス。
2 勞賃ノ昂騰防止及ビ勞務者移動防止ヲ強化徹底スルモノトス。

3 技能者ノ登録ヲ整備シ、ソノ動員體制ヲ確立スルモノトス。
勞働生産性ノ向上

1 生産方法ノ機械化ヲ徹底セシムルモノトス。
2 勞務者ノ技術的訓練ヲ徹底スルト共ニ技術ノ改良及ビ優秀技術ノ導入ヲ積極化スルモノトス。

3 能率増進ヲ圖ル爲メ技術訓練ヲ積極化スルト共ニ家庭的養育ノ方途ヲ講ズルモノトス。
4 技術者ノ養成

普通技術者及ビ技術工ノ養成ニツイテハ企業側ノ自家養成ヲ原則トシ、各企業間ヲシテ積極的ニ之ヲ行ハシムルヲ期ス。

ホコレガ國家教育制度トノ密接ナル結合ニツキ特別ナル考慮ヲ拂フモノトス。

、勞務管理ノ改善

1 生産的勞働ノ公共性ニ照應シ、勞働物資ノ確保ヲ圖ルモノトス。

2 災害防止ノ徹底ヲ期スルト共ニ保健、衛生、諸社施設ノ整備充實ヲ圖ルモノトス。

第四章 經濟綱要

我國ノ東亞共榮圈内ニオイテ占ムル地位オヨビソノ使命ニ鑑ミ日本トノ綜合的經濟關係ヲ基調トシ、産業ノ劃期的開發ニヨル國防經濟體制ノ完成ヲ期スルモノトシ、特ニ先ヅ盛衰的産業ノ開發並ビニ交通網ノ擴充ニ重點ヲ指向スルモノトス。

第一 統制方式

經濟ノ機軸ハ國防經濟體制ノ完成ヲ目途トシ、計畫的統制經濟ノ原則ヲ以テコレヲ貫徹スルモノトス。

一、特殊會社ハ特ニ企業ニ對スル國家ノ參畫ガ高度ニ要請セラレル事業ニノミ限定スルモノトス。

二、一業一社主義ノ企業ノ本質上必要ヤムヲ得ザルモノヲ採キ、コレヲ採ラザルモノトス。

三、統制ニ對スル官民ノ協力體制トシテ、特殊會社ヲヨリ統制機關

ノ機能ヲ刷新強化シ、行政運営上コレガ合理的活用ヲ圖ルモノトス。

四 企業統制ニツイテハ採算性ノ維持、經營ノ合理化、高効率企業ノ發達等、企業性ノ考慮ヲ併セ考慮スルモノトス。

五 統制ノ手段及ビ限界ニツイテハ、統制ノ效率並ニ主眼トシ對象ノ諸性質ニ適應シ、效果的カツキ力性アル情勢ヲ加フルモノトス。ナホ統制ノ方法ニツイテハ區域的マダハ職能的集團ノ利用ヲ考慮シ、特ニソノ自働作用ヲ助長セシムルモノトス。

六 統制ニ當リテハ量ノ増大ニ偏セズ、質ノ向上ニツキ特別ノ處置ヲ講ズルモノトス。

第二 農 業

農村振興ニ施策ノ重點ヲ指向スルトトモニ増産ヲ徹底シ、以テ自給自足ノ確立ヲヨビ日支兩國ニ對スル食糧自給ナラビニ油料増産打ノ

供給基地タルノ使命完遂ヲ期スルモノトス。開拓政策ニ付テハ既定方針ニ基キコレヲ推進スルモノトス。

六 農業施設ノ遂行ニ當リ、科學的計畫性ヲ徹底セシムルモノトス。

七 農業ノ施策ハマツ自興村ニ集注シ、コレヲ通ジテ普及滲透ヲ期スルモノトス。

三 農業技術指導網ノ擴充、特ニ第一線滿系技術指導員ノ養成ヲ圖ルモノトス。

四 農業經營ノ樣式ハ逐次畜力及ビ機械力使用ノ他新發法段階ニ發展到達セシムルモノトシ、特ニ日本開拓民ニ付テハソノ發法改善ニヨリ滿洲農法ノ對峙ヲ具現セシムルモノトス。

五 小作制度ノ改善ソノ他耕作安定ニ關スル方途ヲ講ズルモノトス。

六、未耕地ノ開拓ハ計畫的ニ日本開拓民オヨビ國內移民ヲシテコレヲ發行セシムルモノトス。

七、治水利水事業ヲ促進シ、耕地ノ積極的造成ヲ圖ルモノトス。

八、農産物ノ蒐荷ハ國內外ノ要請ニ即應シ、需要ノ充足ヲ圖ルタメ一層徹底ヲ期スルト共ニソノ方法ニツイテハ更ニ検討ヲ加ヘ改善合理化ニ努ムルモノトス。

九、興農合作社ハコレヲ村單位ニオケル農業關係ノ中心體トシテ育成シ、生産指導ニ力ヲ注ガシムルト共ニソノ共同事業的オヨビ金融的機能ノ助長強化ヲ圖ルモノトス。

十、農産開發オヨビ農業金融ノ圓滑ヲ圖ルタメ、農業特殊金融機關ノ設立ヲ考慮スルモノトス。

十一、農事試験機關ヲ強化スルトモニ、ソノ活動ヲ適切ニ政策ト照應スル如ク運営セシムルモノトス。

十二、特用農産物ニ付テハ面積擴張ニ依ル増産ヲ求メテ主トシテ技術改良ニ依ル増産ヲ期スルモノトス。

第三、林業、畜産業及水産業

- 一、林業ニ付テハ森林資源ノ立地の造成ニ主眼ヲ置キ、造林ノ普及徹底ヲ圖リ官行造林ノ外、特ニ民間ニ於ケル造林ノ積極的且全面的獎勵ヲ行フモノトス。
- 二、畜産ニツイテハ防疫ノ徹底ヲ圖ルト共ニ、農業經營ノ改良方策トシテ家畜ノ積極的増殖並ニ改良ヲ推進スルモノトシテ、併セテ飼料對策ノ確立ヲ期スルモノトス。馬産ニツイテハ既定計畫ノ遂行ヲ期スルモノトス。
- 三、水産ニツイテハ自給自足ノ確立ヲ目標トシ、特ニ國內淡水漁業ノ開發利用並ニ増殖ニ主力ヲ注グモノトス。

第四、鑛工業

一、重工業部門

- 1 重工業ノ畫期的開發ヲ圖ルモノトシ、先ツ専ラ鐵鋼、電

力、石炭、輕金屬オヨビ非鐵金屬ノ開發ニ最重點ヲ置キ、産業ノ將來ニオケル飛躍的發展ノ基礎確立ト戰時必需物資ノ需要充足ノ責務達成ヲ期スルトモニ逐次化學工業、機械工業ソノ他完成品工業ノ確立ニ移行スルモノトス。

イ 鐵鋼業 東亞共榮圈ノ確立上要請セララル鐵鋼ノ大増産ハ、ソノ主要部分ヲ我國資源ノ開發ニ依存セザルベカラザル必然的事實ニ基キ、鐵鋼業ノ飛躍的開發ヲ具現スルト共ニモニ差當リ鐵鋼ノ即效的緊急増産ヲ徹底シ、現有設備能力ノ最高率發揮ニ努ムルモノトス。

- 1 鐵鋼業ノ經營形態ハ貧鐵處理ニ依ル鑛石法銜鋼一貫作業ヲ基本トシ、逐次特殊鋼業オヨビ副產物利用高級化學工業ヲ加フル綜合的經營形態ニ進展セシムルモノトス。
- 2 特殊鋼ニ付テハソノ適地性ニ基キコレガ増産ヲ期スルト

共ニ併セテモリブデン、ウナヂウム等ノ積極的開發ヲ
促進スルモノトス。

ロ 電力、電氣化學工業ノ躍進的開發ヲ目標トシ、先行的
ニ水力電源ノ計畫的開發ヲ行フモノトス。

ハ 石炭

1 自給自足ノ確立特ニ銑鋼業ノ開發ニ即應セル粘結炭
ノ自給自足ナラビニ炭質ノ向上ヲ圖ル爲、既開發オヨ

ビ未開發ノ優良炭田ノ積極的開發ヲ行フモノトス。
2 粗悪炭炭礦ハ漸次之ヲ整理縮小セシムルト共ニ雜小
炭礦ニ付テハソノ統制ヲ強化スルモノトス。

3 炭礦開發ニ付テハ全面的ニソノ機械化ヲ促進セシム
ルモノトス。

- 4 炭質向上、爲、各種選炭施設ノ擴充ヲ強制スルト共ニ炭質ニ基ク合理的價格差ノ設定ソ、他炭質向上、諸方策ヲ講ズルモノトス。
- 5 原料炭ニ付テハ特ニ炭種及品質ノ固定ニ付配給上格別ノ工夫ヲ爲スモノトス。
- ニ 輕金屬 アルミニウムニ付テハ礬土頁岩法ニヨル生産ヲ基本トシ必要ニ應ジ、ホーキサイト法ニ依ル生産ヲ併セ遂行スルモノトス。
- ホ 非鐵金屬及鉛オヨビ亜鉛ノ積極的増産ヲ圖ルト共ニ特ニ銅ノ速急ナル開發ヲ推進スルモノトス。
- 2 重工業部門ニ付テハ右ノ外、特ニ左ノ諸項ニ付考慮ヲ拂フモノトス。
- イ 兵器工業ハ國防上、要請ニ即應シ、コレガ充實ヲ圖リ且

ソノ一般産業ト、結付テ勸業スルト共ニ戰時ニオケル一般産業ノ兵器工業ヘ、轉換ヲ併セ考慮シ置クモノトス。

ロ 機械工業ハ鑛山機械・製鐵機械（電機機械）及農業機械ヲ中心ニ逐次其ノ自給體制ヲ確立スルモノトス。

ハ 車輛工業ハ自給體制ヲ確立スルノ外更ニ大陸需要充足ヲ目途トスルモノトス。

ニ 化學工業ハ電氣化學系統ヲ中核トシ、ソノ他化學工業系統ト、有機的聯關ニ於テ逐次其ノ開發ヲ推進スルモノトス。

ホ 製鹽ニツイテハ對日供給ノ確保及ビ化學工業ノ發展ニ即應シ、ソノ増産ヲ圖ルモノトス。

3 重工業製品ニツイテハ特ニ對日供給ヲ確保スルノ外、大陸隣接地區ニ對スル供給地タルノ實ヲ舉グルトモニソノ原料資源ニツイテハ自給原料ノ外更ニ積極的ニ共榮圈内資源ノ利用ヲモ

併せ考慮スルモノトス。

4 重工業、躍進的開發ニ即應シ、左ノ施策ヲ講ズルモノトス。

イ 工業立地、具體的決定オヨビコレガ整備ヲ先行セシムルモノトス。

ロ 現行鑛業法ニツキ、資源、利用開發的視點ヨリ根本的改正ヲ加フルモノトス。

ハ 官民技術者ヲ總動員シ、賦存資源、計畫的綜合的調査ヲ徹底的ニ遂行スルモノトス。

二、輕工業部門

國內原料ニヨル加工工業ヲ振興スルトトモニ併セテ需要、調整ヲ行ヒ、可及的ニ主要消費物資、自給自足ヲ確立スルモノトス。輕工業、振興ニ當リテハ特に國內資本、活用ヲ圖ルモノトス。

第五 配 給

配給統制ハ經濟活動ノ增進オヨビ公定價格ノ確保ヲ目途トシ、國家目的ニ照應セル重點形成ヲ爲ス共ニソノ手續ハ極力コレヲ簡易化スルモノトス。

- 一、物資配給ノ基調ハ商業利潤ノ追求ヨリ國家目的ニ即應スル配給義務ノ遂行ニコレテ轉換セシムルモノトス。
- 二、~~重要~~要物動物資ノ配給ハ現行方式ニヨリ、既存一元の配給機關ヲシテ物動計畫ニ~~即~~應シ之ヲ行ハシムルヲ原則トス。ナホ配給機構ノ整備刷新ニ付不斷ノ檢討ヲ加フルモノトス。
- 三、統制配給ハ建設資材、原料資材及ビソノ他資材別ニ各々ソノ用途的特性ニ適應セシメ、特ニ重要物動物資ニ付テハ物資ノ綜合的效率發揮ニ遺憾ナカラシムル如ク配給方法ノ改善ニ裕餘ノ考慮ヲ拂フモノトス。

- 四、一般消費物資ノ配給統制ハ主要ナル生活必需物資ニ重點ヲ置キ、實施スルト共ニソノ配給實施ニ付特ニ國家的見地ニ基ク考慮ヲ加フルモノトス。
- 五、物品販賣業ハ原則トシテ許可制度トスルト共ニ、配給段階ノ整理減少ヲ強行スルモノトス。
- 六、配給利潤ヲ統制シ、コレヲ公定口鏡化スルト共ニ併セテ配給業ノ區域的配分ノ適正ヲ期シ且配給業者ヘノ割當基準ヲ能率主義ニ改メ、ソノ正當ナル商業性ノ昂揚ヲ促進スルモノトス。
- 七、農村ニオケル配給機構ニ付テハ合作社ノ整備ニ即應シ、ソノ機能活用に圖ルモノトス。

第六 價格

生産ノ增強オヨビ經濟生活ノ安定ヲ確保スルタメ、價格政策ハ低物價主義ヲ堅持シ價格ハ極力低位ニコレヲ安定セシムルトモニ

國家的見地ニ基キ物價相互間ノ階調均衡ヲ得セシムルゴトク所要ノ調整ヲ加フルモノトス。

一、物價統制ノ基調ヲ生産原價ノ低減ニ置キ、特ニ勞賃昂騰ノ防止ニ努メアハセテ流通過程ニオケル經營及利潤ノ適正化ヲ圖ルモノトス。

二、物資ノ生産原價ニツイテハソノ低減並ニ確保ニ付左ノ方策ヲ講ズルモノトス。

1 原價低減ノ基礎ヲ確立スルタメ統一原價計算制度ヲ創設スルモノトス。

2 原價ノ低減ニツイテハ特ニ能率ノ増進及總體費ノ節減等經營ノ合理化ニ重點ヲ置クモノトス。尙建設費ノ低減ヲ圖ルタメ土建統制ヲ強化スルモノトス。

3 對日關係物資ノ原價ニ付テハ合理的比較基礎ニ於テ日本ノ

價格水準ト同一ナラシムルガ如ク考慮スルモノトス。

4 原價切下ニ於テ企業ニ自主的措置ヲ超ユル分野ニ付テハ行政的處置ヲ施スノ外特ニ經濟平衡資金制度ヲ活用スルモノトス。尙價格補償ノ爲ノ財政的措置ハ原則トシテ之ヲ行ハザルモノトス。

三、配給機關ノ收買價格ハ適正原價主義ニヨリ企業別複數價格ヲ認ムルモ販賣價格ニツイテハ平均價格ヲ原則トスルモノトス。

四、特定生産物資マタハ主要消費物資ノ販賣價格ニツイテハ國家的見地ニ基キ複數價格制ヲ採用スルコトアルモノトス。

五、物價ノ統制ニ當リテハ質オヨビ量ノ低減ニヨル實質價格ノ昂騰防止ニツキ、特別ノ對策ヲ講ズルモノトス。

第七 金 融

- 一、圓元等價主義ヲ阻害スベキ諸因素ハ之ヲ排除スルモノトス。
- 二、國內資金ノ生産部門ヘノ勤員及配分ヲ徹底スルト共ニ投機及商業部門ヘノ適當投資ヲ抑制シ、浮動購買力ノ吸收ヲ圖ルモノトス。
- 三、圓債消化及時蓄獎勵ノ積極化方策ヲ講ズルモノトス。
- 四、證券市場オヨビ國內金融機關ヲ育成整備スルト共ニ土着資本ノ活用ヲ圖ルモノトス。
- 五、中央銀行制度ニ改善ヲ加ヘ、ソノ國家的機能ヲ強化スルモノトス。

第八 交 易

對日オヨビ對支計畫交易ノ完遂ヲ圖ルト共ニソノ他共榮圈内各地域オヨビ樞軸國間トノ貿易ヲ併セ派興スルモノトス。

第九 交通

各種交通施設ノ有機的連繫アル整備擴充ヲ行ヒ、輸送力ノ綜合的
増強ト計畫輸送ノ強化トヲ期スルモノトス。

一、陸運

1 鐵道——鐵道ノ建設ハ國防並ニ産業ノ開發ヲ主眼トシテコ
レヲ行フモノトシテホ私鐵、專用鐵道ノ敷設ニ付テモコレガ
獎勵ヲナスモノトス。

2 道路——國防産業及ビ開拓ニ必要ナル道路ニ付テハ積極的
ニテハソノ維持補修ニ

自動車用幹線道路網

共ニソノ設備ヲ強化

317.921

スルモノトス

第九 交通

各種交通施設ノ有機的連繫アル整備擴充ヲ行ヒ、輸送力ノ綜合的
増強ト計畫輸送ノ強化トヲ期スルモノトス。

一、陸運

1 鐵道——鐵道ノ建設ハ國防並ニ産業ノ開發ヲ主眼トシテコ
レヲ行フモノトシテホ私鐵、專用鐵道ノ敷設ニ付テモコレガ
獎勵ヲナスモノトス。

2 道路——國防産業及ビ開拓ニ必要ナル道路ニ付テハ積極的
ニコレヲ新設スルト共ニ、既設道路ニ付テハソノ維持補修ニ
努ムルモノトス。ナホ全國土ニ亘リ逐次自動車用幹線道路網
ノ完成ヲ期スルモノトス。

3 小運送——小運送施設ノ増強ヲ圖ルト共ニソノ統制ヲ強化
スルモノトス。

二、水運

1 港 灣

イ 国土計畫及び交易計畫ニ即應シ、港灣ノ積極的整備擴充ヲ行フモノトス。

ロ 海運ハ差當リ對日支航路ノ充實ニ重點ヲ置キ、可及的速力ニ外洋航路ニ付テモノノ發展ヲ期スルト共ニ併ニ汽船施設ノ擴充ヲナスモノトス。

2 河川オヨビ運河、河川航路ノ整備充實ヲ圖ルト共ニ

兩湖工業地帯ニオケル陸路運河ノ建設ヲ考慮スルモノトス。

三、航空 國內オヨビ對日支各地間航路ノ擴充強化ヲ圖ルト共ニ國內飛行場氣象、通信等航空保安施設ノ整備ヲ切スルモノトス。

國防ナラビニ産業ノ開發ヲ主眼トシ、通信施設ノ整備擴充ヲ圖ル
モノトス。

第十一 理 水

治水專業ハ防水ナラビニ河水ノ效率的利用ヲ目途トシ、綜合的計
畫ノ下ニ積極的ニコレヲ推進シ、特ニマズ意河水系ニソノ重點ヲ
置クモノトス。

第十二 都 邑 計 畫

立地計畫ニ基キ適正規模ニヨル都邑計畫ノ確立ヲ期スルトモニ
既存大都市ニオイテハ人口ノ過剩集中ヲ抑制シ、カツソノ疎散ヲ
行フモノトス。

第十三 科 學 技 術

一、科學技術ノ振興ヲハカルトモニソノ國家性ニ即應シ、科學
技術ノ綜合的統制オヨビ勸励體制ヲ確立スルモノトス。

- 二、廣ク科學技術發達ノ精神ヲ昂揚スルトトモニ併セテ科學技術ヲ尊重ノ氣風ヲ作興スルモノトス。
- 三、科學技術各種研究機關ノ整備擴充ヲ圖リ、特ニ我國土ニ適合セル科學技術ノ育成ヲ期スルモノトス。
- 四、各種規格ノ統一ヲヨビテ、普及ヲ圖リ、生産能率ノ増進ヲ期スルモノトス。
- 五、現行特許發明制度ニ付、發明ノ獎勵ヲヨビテ之ヲ利用促進的視點ヨリ根本的檢討ヲ加フルモノトス。

滿洲火藥工業株式會社增資要綱

(昭、一八、三、二五日)
日滿經濟共同委員會決定

第一 方針

國內地下資源開發ノ飛躍的擴充ニ伴ヒ火藥類ノ需要量ハ逐年増加ノ傾向ニ在ルモ之カ對日期待ハ極度ニ逼迫シツツアリテ今後ニ於ケル國內所要量ノ確保ハ專ラ國內生産力ノ増強ニ俟タサルヘカラサル現況ニ在ルニ鑑ミ滿洲火藥工業株式會社ノ資本金ノ増額ヲ行ヒ第二次五ヶ年計畫ニ基ク該社ノ生産施設ノ擴充計畫ヲ促進セシメ以テ之カ需給ノ圓滑化ヲ圖ラントス

第二 要領

1 增資額ハ一、一五〇萬圓トシ現在資本金八五〇萬圓 (金額拂込済)
四七

千二〇〇〇萬圓トス

2 増資分、出資者ヲ左ノ通豫定ス

滿洲國政府

二〇〇萬圓

滿洲重工業株式會社

四〇〇萬圓

株式會社奉天造兵所

一五〇萬圓

日本側生命保險團

四〇〇萬圓

合計

一、一五〇萬圓

3 第一回拂込（四分ノ一）、時期ハ康徳十年四月トス

第三 措 置

1 滿洲火藥工業株式會社法ヲ改正スルモノトス

備考

1 増資額ヲ以テ左ノ生産設備能力ヲ完成セシムルモノトス

品目	康徳八年度末ニ於ケル施設能力	増資額ニ依ル擴充施設能力	計 康徳十二年度末ニ於ケル施設能力
硝安系爆藥	六三〇〇屯	九九〇〇屯	一六二〇〇屯
蜜管類	三五〇〇萬個	五五〇〇萬個	九〇〇〇萬個
導火線	三〇〇〇萬米	四〇〇〇萬米	六〇〇〇萬米

2 滿洲火藥工業株式會社ノ生産施設ノ擴充ニ伴ヒ滿洲化學工業株式會社ノ硝安母ノ生産施設ノ擴充計畫ヲ促進セシムルモノトス

滿洲鐵鋼價格改訂要綱

昭和十八年三月三十一日
關東各省打合會決定
大東亞省滿洲事務局

第一方 針

鐵鋼非常増産ノ要請ニ即應スル爲最近ニ於ケル昭和製鋼所及本溪湖
煤鐵公司ノ鐵鋼生産原價ハ著騰ノ現況ニ鑑ミ左記要領ニ依リ改買價
格ノ改訂ヲナスト共ニ國內販賣價格及對日供給價格ノ調整ヲ行ヒ以
テ鐵鋼増産ノ完遂ニ遺憾ヲカラシメントス

第二要 領

- 一 康德九年度鐵鋼價格改訂ニ於テ北支期待製鐵用原料炭ノ價格低減
ニ充當セシムル爲經濟平衡資金ヨリ支出セル趣當九圓二九錢ハ康
德十年度北支期待原料炭分ニ對シテモ引續キ之ガ支出ヲナスモノ
トス
- 二 康德十年度ニ於テ北支原料炭ノ價格値上ゲアリタルトキハ經濟平
衡資金ニ於テ之ガ負擔ヲナスモノトス

三、康德十年度ニ於テ東邊道及龍烟鐵鑛石等ノ購入鐵鑛石ノ價格値上
 ゲアリタルトキハ之ガ爲鐵鑛價格ノ引上ケハ行ハズ經濟平衡資金

ニ於テ之ガ補填ヲサスモノトス

四、前三項ノ措置ニ基キ康德十年度鐵鋼價格ヲ左ノ通改訂ス

(一) 收買價格

1、銑	鐵ベース物	鞍山銑	適當一五二圓〇一錢
		本溪湖銑	一五九圓〇〇錢
		平均	一五四圓七二錢
2、扁平鋼塊	ベース物		二四四圓二四錢
3、菊型鋼塊			二九九圓七四錢
4、鋼片	ベース物		二四九圓二四錢
5、鋼材、丸鋼	ベース物		二九六圓四三錢

(二) 國內統制販賣價格

(イ) 一般向統制販賣價格

- 1、銑鐵 ベース物 躰當一五九圓〇〇錢
- 2、菊型鋼塊 三〇八圓〇〇錢
- 3、鋼片 ベース物 二五八圓〇〇錢
- 4、鋼材、丸鋼 ベース物 三一二圓〇〇錢

(ロ) 軍向特殊價格

- 1、銑鐵 ベース物 躰當一五四圓七二錢
- 2、鋼材、丸鋼 ベース物 二九六圓四三錢

(ハ) 滿鐵向特殊價格

- 1、銑鐵 ベース物 一五六圓五〇錢
- 2、鋼片 ベース物 二五〇圓〇〇錢
- 3、鋼片 一般品 丸鋼ベース物 三一二圓〇〇錢

昭和品

三〇四圓〇〇錢

昭和電軌條(目板込)

廻富三〇八圓〇〇錢

(三) 對日供給價格

1、銑鐵	ベース物	内地	廻富一七八圓〇一錢
2、扁平鋼塊			二七一圓六四錢
3、鋼片			二七四圓六四錢
4、鋼材	丸鋼ベース		三三三圓七一錢

康徳九年度ニ於テ對日期待鋼材價格ヲ現行諸價キトシ之ニ依ツテ
 生ズル滿洲ニ於ケル販賣價格ト、差令ヲ日本側ニ於テ滿洲生産額
 坑半成品ノ對日供給價格ノ引下ニ充當セル日滿商輸出入價格同額
 ニ伴フ増價ハ康徳十年度ニ於テ之ヲ變更セザルモトス

第三 帶 權

本要綱ニ依ル鋼價表ノ改訂ハ康徳十年四月一日ヨリ實施スルセ
 トス

「備考」

康徳九年度ニ於テ北支原料炭々價ノ輕減ヲ圖ル爲指置セル原料炭輸入税免除ノ件ハ康徳十年十二月末日迄效力ヲ有ス



昭和十八年度滿洲鐵鋼價格改訂要綱ニ關スル
諒解事項

- 一、昭和十八年度物動計畫ニ基キ昭和十七年度ニ於テ先渡セル銑鐵七〇千噸ニ對シテモ昭和十八年度改訂價格ヲ適用スルコト
- 二、對日供給鐵鋼ノ運賃諸掛ニ付テハ陸運轉換等ノ關係モ考慮シ實費主義ニ依リ別途協定スルコト
- 三、フイリツピン滿俺鑽石ノ價格ニ付テハ日本内地沖着價格一一八圓ヲ以テ對滿供給ヲ確保スルコト
- 四、價格ノ改訂ハ昭和十八年四月一日ヨリ實施シ受渡主義ニヨリ施行スルコト
- 五、鐵鋼ノ各ベース品ニ對スル格差ニ付テハ日滿兩當局ニ於テ極力之ヲ合理的ニ調整スルコト

(別表)

新舊鐵鋼價格比較表 (聽當)

一、收買價格	改訂價格		現行價格		值上額		值上率	
	本溪湖銑	平均						
1、銑 鐵 ベース物 鞍山銑	一五二・〇一	一五九・〇〇	一三五・〇〇	一七・〇一	一二・六%			
	一五四・七二	一四七・五〇	一三七・三七	一一・五〇	七・八%			
2、扁平鋼塊	二四四・二四	一九四・五〇	一九四・五〇	四九・七四	二五・六%			
3、菊型鋼塊	二九九・七四	二五〇・〇〇	二五〇・〇〇	四九・七四	一九・九%			
4、鋼 片 ベース物	二四九・二四	一九九・五〇	一九九・五〇	四九・七四	二四・九%			
5、鋼 材 丸鋼ベース物	二九六・四三	二一九・五〇	二一九・五〇	七六・九三	三三・〇%			
二、國內統制販賣價格								
(A) 一般向統制販賣價格								
1、銑 鐵 ベース物	一五九・〇〇	一四〇・〇〇	一四〇・〇〇	一九・〇〇	一三・六%			

(B) 菊型鋼塊

2、鋼片	ベース物	三〇八・〇〇	二五六・二五	五一・七五	二〇・二%
3、鋼材	丸鋼ベース物	二五八・〇〇	二〇七・〇〇	五一・〇〇	二四・六%
4、鋼材	丸鋼ベース物	三一三・〇〇	二三四・五〇	七七・五〇	三三・〇%

(B) 單向特殊價格

1、銑鐵	ベース物	一五四・七二	一三七・三七	一七・三五	一二・六%
2、鋼材	丸鋼ベース物	二九六・四三	二一九・五〇	七六・九三	三五・〇%

(C) 滿鐵向特殊價格

1、銑鐵	ベース物	一五六・五〇	一三七・五〇	一九・〇〇	一三・八%
2、鋼片		二五〇・〇〇	一九九・〇〇	五一・〇〇	二五・六%
3、鋼材	一般向丸鋼ベース物	三一三・〇〇	二三四・五〇	七七・五〇	三三・〇%
	昭和品	三〇四・〇〇	二二六・五〇	七七・五〇	三四・二%
	昭和重軌條(目板込)	三〇八・〇〇	二三〇・五〇	七七・五〇	三三・六%

三對日供給價格

1、銑鐵	ベース物	二七八・〇一	一五七・一三	二〇・八八	一三・三%
------	------	--------	--------	-------	-------

2、扁平鋼塊	ベース物	内地	二七一・六四三二二・五一四九・一三三二・一%
3、鋼片			二七四・六四三二四・〇一五〇・六三三二・六%
4、鋼材	丸鋼ベース物		三三二・七一三五五・七八七六・九三三〇・一%

[Faint, illegible handwritten text or bleed-through from the reverse side of the page]

吉林人造石油株式會社專業處理要綱

昭和十八年三月三十一日
大東亞省打合會決定
大東亞省滿洲事務局

第一方 針

人造石油製造專業ハ大東亞戰爭下其ノ確立ヲ圖ルノ要益々緊切ナル
モノアリト雖モ現下諸般ノ情勢ニ鑑ミ差當リ吉林人造石油株式會社
ノ現有設備及技術ノ最高率活用ヲ計リ航空燃料トシテ緊要ナル「メ
タノール」ノ早期生産ヲ爲サシムル等ノ措置ヲ講ズルト共ニ併セテ
企業ノ集中、技術ノ統合強化ヲ計リ、以テ將來本事業進展ノ基礎ヲ
確立セントス

第二要 領

一 新ニ滿洲國普通法人タル滿洲人造石油株式會社（假稱）ヲ設立ス
ルモノトス

(1) 資本金

五〇、〇〇〇千圓程度

出資比率

政府	三五%
帝 燃	三五%
滿 鐵	三〇%

(四) 工場所在地

吉林及撫順

(イ) 事業目的

人造石油ノ製造及之ニ附帶スル業務

(三) 經營擔當者

滿 鐵

三滿洲人造石油株式會社(假稱)ハ吉林人造石油株式會社吉林工場

ノ現有設備資材等ヲ極力利用スル如ク之ヲ譲リ受ケ兼當リ左ノ目

標ニ從ヒ工場ノ整備ヲ行フモノトス

(イ) 生産目標(年産)

人造石油

一〇、〇〇〇 觔

粗メタノール約

五〇、〇〇〇 觔

(ロ) 整備所要資材

(吉林人造石油ヨリ譲リ受ケルモノヲ除ク)

鋼材

三、二〇〇 觔

銅

約

九〇題

(丙) 整備完了時期

康德十一年九月末日

三 滿洲人造石油株式會社(假稱)ハ成ルベク速カニ滿鐵・撫順石炭
液化工場ヲ買收經營スルモノトス

第三 措 置

一 本件實施ニ關聯シテ吉林人石事業ノ整理ヲ促進スル爲政府、帝燃
吉林人石、滿鐵等關係者ヲ以テ組織スル吉林人石事業處理委員會
ヲ設置ス

二 吉林人石ハ滿洲人石(假稱)ニ對シ其ノ工場設備ニ必要ナル設備
資材等ヲ讓渡スルト共ニ前項吉林人石處理委員會ノ指示ニ基キ財
産ノ整理兼營業ノ處理等諸般ノ措置ヲ急遽ニ講ズルモノトス

吉林人造石油株式會社事業處理要綱ニ關スル諒解事項

- 一 吉林人石會社ノ財産處分ニ付タリテハ時價ヲ基準トセル適正ナル價格ニヨリ評價シ極力赤字ヲ生ゼシメサル様措置スルコト
- 二 吉林人石處理委員會ニ於テ決定スル重要事項ニ付テハ隨時日本政府側ニ連絡スルコト
- 三 生産物ノ收買價格ハ原價計算ヲ基準トシ適正價格ヲ設定シテ事業ノ遂行ニ支障ヲ來サシメサルコト

金利調整基本規約

(第三次協定)
四月五日實施

目次

第一章	總則
第二章	預金利率
第三章	貸出利率
第四章	運用
第五章	附則
別表第一、第二、第三	各處

第一章 總則

第一條 國內ノ金融機關ハ遵養ノ效率的吸収ヲ計リ公債償消化並ニ重要事業及重要物資調達係ニ對スル貸出金利ノ低下ニ資スル目的ヲ以テ其ノ金利ヲ調整スルモノトス

第二條 國內所在ノ金融機關（別表第一條、以下單ニ加盟員ト稱ス）ハ本規約ヲ誠實ニ遵守スルモノトス

第二章 預金利率

第三條 全滿各都市ヲ別表第二條、通リ中、乙、丙、各區ニ區分シ加盟員ハ預金者ノ轉居其ノ他已ムヲ得サル場合ヲ除キ其ノ所在地域外ノ預金（漸地預金）ヲ取扱フコトヲ得サルモノトス

第四條 加盟員ノ預金基準利率ハ別表第一及第二ノ各條ノ區分ニ從ヒ別表第三條ニ定ムルトコロニ據ルモノトス

第五條 加盟員ノ現行利率ハ基準利率ヨリ低率ナルモノハ現行利率

ノ通り措置タモトス

第六條 興農合作社ノ興農有難儲金、特別定期積金、興農會基金儲金及農民裕生會貯金ハ基準利率ニ依ラサルコトヲ得

第七條 措置預金ノ中間四箇年以上ノモノハ基準利率ヨリ年〇、三%迄増率スルコトヲ得

第八條 定期積金ノ預入者轉居セル場合ニ限リ當該積金ノ満期迄ハ轉住地ニ於テ現住地ニ於ケルノ同一利率ヲ以テ取扱フコトヲ得

第九條 加盟員ニ於テ其ノ從業員若クハ從業員タリシ者一遺族ヲ含ムルノ當該加盟員ニ對スル預金ニ付特殊ノ取扱ヲ爲ス定アル場合ハ基準利率ニ依ラサルコトヲ得

第十條 國民儲蓄會幹旋ニ依ル預金ノ利率ハ別段ノ定ニ據ルモノトス

第十一條 定期預金ノ期間ハ六箇月及一箇年ノ二種トシ措置預金及

定期積金ノ期間ハ一箇年ヲ下ルコトヲ得サルモノトス

第十二條 加盟員ハ如何ナル名義及方法ヲ以テスルヲ間ハス本規約ノ精神ニ反シ其ノ利率ヲ超過スル利息ヲ支拂ヒ若クハ之ヲ支拂フト同一ニ認マラルヘキ行爲ヲ爲ササルモノトス

第三章 貸出利率

第十三條 貸出ノ最低利率ハ百圓ニ付日歩一分二厘トス但シ預金債權擔保ノモノニ對スル特別率ハ之ヲ除ク

第十四條 最高貸出利率ハ百圓ニ付日歩三分五厘トス

第四章 運用

第十五條 本規約ノ運用上必要ナル事項ハ滿洲金融協會ニ於テ之ヲ處理スルモノトス

第十六條 加盟員ニ於テ本規約ノ定ムルニ依リテ得サル場合ハ滿洲金融協會ノ承認ヲ得ルモノトス

第五章 附 則

第十七條 本規約ハ、民國十年四月十五日ヨリ向フ一箇年ヲ期限トス

第十八條 本規約ニ基ク預金、貸出、取扱ニ付テハ本規約實施日以降ノ新規及替卷、モ、ニ之ヲ適用ス

當座預金、特別當座預金、及通知預金其ノ他期限ノ定ナキ預金ニ付テハ施行日ヨリ之ヲ適用ス

第十九條 當座預金及定期預金ノ金利中變更ヲ要スルモノハ本規約實施後三箇月以内ニ之ヲ行フモノトス

第二十條 定期預金ノ利率ハ對外的ニハ發表セサルモノトス

第二十一條 定期預金ニ限リ滿洲興業銀行ハ年〇、三%迄ノ積蓄正金銀行及東洋拓殖株式會社ハ年〇、二%迄ノ貯蓄率ヲ各々ノ基準利率ニ附加スルコトヲ得

第二十二條 滿洲中央銀行ノ金融機關ニ對スル預金、貸出ノ利率ハ

本規約ニ據ラサルモノトス

第二十三條 本規約ニ基キ各地域加盟員間ニ於テ必要アリト認めラ
ルル事項ニ付テハ追加協定ヲ爲スコトヲ得ルモノトス
第二十四條 本規約及前條ノ追加協定ニ關スル經解部ノ承認ヲ受ケ
ル手續ハ之ヲ滿洲金體協會ニ委任スルモノトス

昭和十一年三月十五日

別表第一號

金融機關名

一、滿洲中央銀行、滿洲興業銀行、滿洲正金銀行、東洋拓殖株式會社
二、新京銀行、興德銀行、奉天商工銀行、奉天銀行、濱江實業銀行、
安東商工銀行、東遼實業銀行、吉林銀行、東興銀行、東滿銀行、
興亞銀行、薩工金融合作社、興農合作社
三、齊齊哈爾商工銀行、益發銀行、益通商業銀行、功成銀行、志誠銀
行、瀋陽商業銀行、大成銀行、德泰銀行、大東銀行、錦熱銀行、
三江銀行、滄泰國民銀行、中國銀行、滿洲鐵道協會加盟、冬無礙
會社

加盟員、預金利率適用上、區分
前項第一號、加盟員ハ特殊銀行、同第二號、加盟員ハ第一種銀行、
同第三號、加盟員ハ第二種銀行ト謂フ

別表第二號

甲地 (十七都市)

新京(范家屯子含ム)、奉天(蘇家屯子含ム)、哈爾濱、安東、四平、撫順、鞍山、鐵嶺、營口、錦州、牡丹江、吉林、佳木斯、齊齊哈爾、圖們、綏化、龍井

乙地 (二十八都市)

瓦房店、熊岳城、蓋平、大石橋、海城、遼陽、通化、鳳城、本溪湖(宮ノ原子含ム)、開原、西安、公主嶺、承德、赤峰、阜新、通遼、洮南、白城子、海拉爾、黑河、北安、克山、海倫、綏化、東安、富錦、瑋春、敦化

丙地

右甲地及乙地以外ノ地

別表第三號

地域別	甲地			乙地			丙地	
	特殊銀行	第一種銀行	第二種銀行	特殊銀行	第一種銀行	第二種銀行	特殊銀行	其他
定期預金	四八%以下	四七%	四五%	四〇%	四〇%	三八%	四〇%	六〇% ※三五%
當座預金	二厘以下	三厘	五厘	二厘	四厘	六厘	二厘	六厘 ※五厘
特別當座預金	六厘以下	八厘	一〇厘	六厘	九厘	一一厘	六厘	二厘 ※〇厘
通知預金	七厘以下	九厘	一一厘	七厘	一〇厘	一二厘	七厘	一二厘 ※一厘
定期積金	四四%以下	五〇%	五五%	四六%	三五%	六〇%	四六%	六〇% ※三五%

(注) 印刷率ハ他ニ第二種銀行存立スル場合ニ於ケル第一種銀行ノ利率トス

株式會社昭和製鋼所増資要綱（昭和一八、四、二三）
日滿經濟共同委員會決定

第一 方針

刻下生産力擴充ノ緊切ナル要請ニ即應シ株式會社昭和製鋼所ノ負荷セラレタル鐵鋼増産ノ重要使命完遂ニ遺憾ナカラシムル爲左記要領ニ依リ増資ヲ行フモノトス

第二 要領

一、株式會社昭和製鋼所ノ現在資本金二億圓（全額拂込済）ヲ倍額ノ四億圓ニ増資ス

二、増資額ハ滿洲重工業開發株式會社ニ於テ全額引受トス

三、拂込徴收ハ差當リ康徳十年四月三十一億圓トス

四、拂込方法ハ原則トシテ滿洲重工業開發株式會社ヨリノ借入金ノ振替ニヨルモ不足額ハ現金拂込トス

第三 措置

一、株式會社昭和製鋼所法ノ必要ナル改正ヲ行フ

滿洲國及獨逸國間經濟關係存續，爲第三次協定（康二〇二二）
締結

滿洲國政府及獨逸國政府ハ滿洲國及獨逸國間ニ現存スル經濟關係ヲ存續セシメンコトヲ希望スルニ因リ康德九年十二月一日ヨリ康德十年十一月三十日ニ至ル期間ノ兩國間ノ經濟關係ヲ規定センガ爲メ雙方全權委員ヲシテ左ノ通規定セシメタリ

第一條 滿洲國政府ハ本協定ノ有效期間中ニ大豆油一萬七千噸ヲ大豆油房院內又ハ混合保管タンク減課一噸六百ライヒスマルクニテ獨逸國ニ供給セララルル様必要ナル措置ヲ講ズル義務ヲ有スルモノトス

第二條 獨逸國政府ハ橫濱正金銀行ガ獨逸銀行ヨリ康德十年十一月三十日迄ニ一千萬ライヒスマルクヲ限股トスル前貸金ヲ借入レ得ル様必要ナル措置ヲ講ズル義務ヲ有スルモノトス
前項ノ前貸金ハ第一條ニ基キ獨逸國ニ供給セララルベキ大豆油ガ現

實ニ供給セラレタル分量ニ相當スル金額ノ範圍内ニ於テ供與セラ
ルモノトス

第三條 第一條ニ掲ゲラレタル大豆油ニ對スル支拂ハ先ヅライヒス
マルク特別勸定滿洲國^ワノ返済ニ充當セラレ右完済後ニ於テハラ
イヒスマルク特別勸定滿洲國^ワノ返済ニ充當セラレルモノトス
若シ康徳十年十一月三十日ニ於テライヒスマルク滿洲國特別諸勸
定ニ受人レタル前貸金ガ未ダ返済セラレサル場合ニ於テハ右殘額
ハ獨逸國ニ依リ滿洲國生産品ノ輸入ニ對スル支拂並ニ其ノ他ノ獨
逸國ノ對滿債務ノ決済ニ充當セラレ得ルモノトス

第四條 滿洲國政府ハ本協定ノ有効期間中ニ阿片十觔ガ獨逸國ニ供
給セラレル様必要ナル措置ヲ講ズル義務ヲ有スルモノトス
獨逸國政府ハ上記數量ノ阿片ノ輸入ヲ可成速カニ認め且右ニ必要
ナル支拂許可ヲ與フル義務ヲ有スルモノトス

一、本協定は、滿洲國政府と日本帝國政府との間に締結せられたるものである。其の目的は、滿洲國の生産品を日本帝國に供給せしむること及び日本帝國の生産品を滿洲國に供給せしむることにある。

二、本協定は、滿洲國の生産品を日本帝國に供給せしむるに關し、日本帝國政府は、滿洲國政府に對し、特別勘定を設け、其の額を日本帝國政府の對滿洲國の貿易収支の算入とする。

三、本協定は、滿洲國の生産品を日本帝國に供給せしむるに關し、滿洲國政府は、日本帝國政府に對し、特別勘定を設け、其の額を滿洲國政府の對日本帝國の貿易収支の算入とする。

四、本協定は、滿洲國の生産品を日本帝國に供給せしむるに關し、日本帝國政府は、滿洲國政府に對し、特別勘定を設け、其の額を日本帝國政府の對滿洲國の貿易収支の算入とする。

五、本協定は、滿洲國の生産品を日本帝國に供給せしむるに關し、滿洲國政府は、日本帝國政府に對し、特別勘定を設け、其の額を滿洲國政府の對日本帝國の貿易収支の算入とする。

六、本協定は、滿洲國の生産品を日本帝國に供給せしむるに關し、日本帝國政府は、滿洲國政府に對し、特別勘定を設け、其の額を日本帝國政府の對滿洲國の貿易収支の算入とする。

七、本協定は、滿洲國の生産品を日本帝國に供給せしむるに關し、滿洲國政府は、日本帝國政府に對し、特別勘定を設け、其の額を滿洲國政府の對日本帝國の貿易収支の算入とする。

八、本協定は、滿洲國の生産品を日本帝國に供給せしむるに關し、日本帝國政府は、滿洲國政府に對し、特別勘定を設け、其の額を日本帝國政府の對滿洲國の貿易収支の算入とする。

九、本協定は、滿洲國の生産品を日本帝國に供給せしむるに關し、滿洲國政府は、日本帝國政府に對し、特別勘定を設け、其の額を滿洲國政府の對日本帝國の貿易収支の算入とする。

十、本協定は、滿洲國の生産品を日本帝國に供給せしむるに關し、日本帝國政府は、滿洲國政府に對し、特別勘定を設け、其の額を日本帝國政府の對滿洲國の貿易収支の算入とする。

上記數量ノ阿片ニ對スル代金ノ四分ノ三ハライヒスマルク特別勘定滿洲國W又ハVニ四分ノ一ハライヒスマルク特別勘定滿洲國Bニ拂込マルモノトス

第五條 大豆油及阿片以外ノ滿洲國生産品ガ獨逸國ニ供給セラレタル場合ニハ右ニ對スル代金ノ四分ノ三ハライヒスマルク特別勘定滿洲國W又ハVニ四分ノ一ハライヒスマルク特別勘定Bニ拂込マルモノトス

第六條 滿洲國政府ハ本協定ノ有效期間中ニ康徳六年五月三十一日ノ品目表乙號ニ掲ゲラレタル以外ノ獨逸國生産品ニシテ既ニ輸入許可ヲ與ヘテシタルモノニ限り之ガ輸入ヲ認メ輸入許可ヲ延長又ハ更新シ且本協定第四條及第五條ノ規定ニ基キ滿洲國特別勘定Bニ拂込マレタル金額ノ範圍内ニ於テ必要ナル支拂ノ許可ヲ與フベシ

第七條 特別勘定滿洲國ハ獨逸國ノ交通機關ノ利用ニ因リ生ジタル滿洲國ノ運賃債務及滿洲國ノ交通機關ノ利用ニ因リ生ジタル獨逸國ノ運賃債務並ニ滿洲國ガ獨逸國ニ於テ又ハ獨逸國ガ滿洲國ニ於テ支拂フベキ倉庫料、積替料、保險料其ノ他類似ノ諸係ノ支拂ニモ利用スルコトヲ得ルモノトス

契約解除ニ因ル拂戻金及贖買代金ハ同様特別勘定滿洲國ニ依リ處理セララルモノトス

第八條 特別勘定滿洲國ハ、現高ハ康德六年五月三十一日ノ品目表乙號ニ掲ゲラレザル獨逸國生産品ノ支拂ニ支障ナキ限り左ノ目的ニ使用スルコトヲ得ルモノトス

一 製造特許代金及特許使用料ニ對スル支拂

二 滿洲國ノ會社又ハ社團ガ獨逸國ニ於テ機械、器具又ハ特許ヲ購入セル工場施設其ノ他ノ施設ニ伴ヒ雇傭セル獨逸人技師又ハ其

九、本條之規定、係以滿洲國政府、及獨逸國政府、之同意、而為之、其目的、在於、使滿洲國政府、及獨逸國政府、之關係、得以、維持、其間、之和平、及、安寧、也、

十、本條之規定、係以、滿洲國政府、及、獨逸國政府、之同意、而為之、其目的、在於、使滿洲國政府、及、獨逸國政府、之關係、得以、維持、其間、之和平、及、安寧、也、

十一、本條之規定、係以、滿洲國政府、及、獨逸國政府、之同意、而為之、其目的、在於、使滿洲國政府、及、獨逸國政府、之關係、得以、維持、其間、之和平、及、安寧、也、

十二、本條之規定、係以、滿洲國政府、及、獨逸國政府、之同意、而為之、其目的、在於、使滿洲國政府、及、獨逸國政府、之關係、得以、維持、其間、之和平、及、安寧、也、

十三、本條之規定、係以、滿洲國政府、及、獨逸國政府、之同意、而為之、其目的、在於、使滿洲國政府、及、獨逸國政府、之關係、得以、維持、其間、之和平、及、安寧、也、

十四、本條之規定、係以、滿洲國政府、及、獨逸國政府、之同意、而為之、其目的、在於、使滿洲國政府、及、獨逸國政府、之關係、得以、維持、其間、之和平、及、安寧、也、

十五、本條之規定、係以、滿洲國政府、及、獨逸國政府、之同意、而為之、其目的、在於、使滿洲國政府、及、獨逸國政府、之關係、得以、維持、其間、之和平、及、安寧、也、

十六、本條之規定、係以、滿洲國政府、及、獨逸國政府、之同意、而為之、其目的、在於、使滿洲國政府、及、獨逸國政府、之關係、得以、維持、其間、之和平、及、安寧、也、

十七、本條之規定、係以、滿洲國政府、及、獨逸國政府、之同意、而為之、其目的、在於、使滿洲國政府、及、獨逸國政府、之關係、得以、維持、其間、之和平、及、安寧、也、

十八、本條之規定、係以、滿洲國政府、及、獨逸國政府、之同意、而為之、其目的、在於、使滿洲國政府、及、獨逸國政府、之關係、得以、維持、其間、之和平、及、安寧、也、

十九、本條之規定、係以、滿洲國政府、及、獨逸國政府、之同意、而為之、其目的、在於、使滿洲國政府、及、獨逸國政府、之關係、得以、維持、其間、之和平、及、安寧、也、

二十、本條之規定、係以、滿洲國政府、及、獨逸國政府、之同意、而為之、其目的、在於、使滿洲國政府、及、獨逸國政府、之關係、得以、維持、其間、之和平、及、安寧、也、

他ノ専門家ニ對シテ支拂フ俸給、補償及其他ノ支拂但シ右
受取人ガライヒスマルタニ依ル支拂ヲ受諾シ且右支拂ヲ撥款養
權利者ニ對シテ爲サルル場合ニ限ル

前記殘高ナキ場合滿洲國政府ハ特別ノ要請ヲ爲シ獨逸國政府ノ同
意ヲ得テ第三條ニ規定セラレタル前貸金ヲ右目的ニ使用スルコト
ヲ得ルモノトス

第九條 滿洲國政府及獨逸國政府ハ相互條件ノ下ニ在厚並ニ將來入
庫セラレルベキ各相手國ノ貨物ヲ差押ヘサルベク此等貨物ノ隨時販
出ヲ許可シ又輸出ニ至ル迄ハ此等貨物ニ對シ適切ナル保管ヲ爲サ
ルル様措置ヲ講ズル義務ヲ有スルモノトス

第十條 獨逸國政府ハ獨逸國輸出業者ガ滿洲國側被註ニ係ル獨逸國
生産品ニ對シ契約價格以上ヲ要求セザル様措置ヲ講ズル義務ヲ有
スルモノトス

第十一條 本協定ノ爲ニ

(1) 獨逸國生産品トハ獨逸國ニ於テ專ラ生産セラレタル者又ハ經濟上合理的ニシテ且其ノ性狀ニ本質的ノ變化ヲ來ス最終的工程ヲ經タル貨物ヲ謂ヒ

(2) 滿洲國生産品トハ滿洲國ニ於テ專ラ生産セラレタル者又ハ經濟上合理的ニシテ且其ノ性狀ニ本質的ノ變化ヲ來ス最終的工程ヲ經タル貨物ヲ謂ヒ

(3) 關東州ノ生産品ノ獨逸國へノ輸出ハ滿洲國生産品ノ輸出ト看做サレ

(4) 獨逸國生産品ノ滿洲州へノ輸入ハ滿洲國へノ輸入ト看做サルベシ

第十二條 本協定ハ調印ト同時ニ庚辰九年十二月一日ニ起リ效力ヲ發生シ且庚辰十年十一月三十日迄有效ナルモトス

若シ康徳十年十一月三十日迄ニ雙方間ノ關係ニ關シ別ニ調査ノ方
法ヲ講ゼザレザル場合ニ兩國政府ハ適當ナル時期ニ於テ之ガ副
ニ關シ交渉ヲ開始スベキモノトス
右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ漢文及滿
文共同一ノ效力ヲ有スル本協定各二國ニ署名調印セリ
康徳十年十月十一日即チ千九百四十三年十月十一日新京ニ於テ作
成ス

滿洲國及獨逸國間經濟關係存續ノ爲メ第三條協定附屬規定書

一 協定第二條ニ基キ供與セラルベキ「前貸金」ノ爲メ關係當局間ノ一層詳細ナル取極ニ基キ新ニライヒスマルクヲ特別勸定滿洲國ニテ開設スルモノトス

二 滿洲國ガ協定第一條ニ據ゲラレタル大豆油ヲ容ルルニ必要ナルドラム噸ヲ提供スル場合ニハ一廻ノ大豆油ニ對スルドラム噸ノ價格ハ六十八ライヒスマルクトス
右代金ノ支拂ハライヒスマルクヲ特別勸定滿洲國又ハロヂ適ジテ行ハルモノトス

三 協定第四條ニ基キ供給セラルベキ阿片ノ價格ハ一庇二百七十一・五十五ライヒスマルクトス但シ本價格ハ零ルヒオ八パーセント含有ヲ基準トシ之ヲ超過スル含有量一パーセントニ付三十二・四十七ライヒスマルクノ割合ヲ以テ増加スルモノトス

四、滿洲國向積送ノ獨逸國生産品ノ滿洲國へノ輸入ニ際シテハ該生産品ガ附屬書類ニ依リ獨逸國生産品ナルコト明カナラザル限り統計ノ目的ヲ爲シ滿洲國稅關ノ要求ニ基キ獨逸國ヨリノ輸入品ナル旨ノ獨逸國公使館又ハ領事館ノ證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

五、大豆以外ノ滿洲國生産品ノ輸出ノ取扱ニ關シテハ獨逸人輸出業者ハ從來ノ實績ニ照シテ考慮セラルルモノトス

六、協定第二條ニ基キ供與セラレタル前貸金ハ協定ノ有効期間中ニ支拂ヲ要スル既發註品ノ支拂義務ヲ完全ニ實行シ得ル限り新規發註品ニ對シテモ使用シ得ルモノトス

七、滿洲國ハ舊前貸金ヲ含メ其ノ都度生スル債務ヲ適正ナル價格ニ基キ協定セララルベキ商品ノ引渡ニ因リ返済スベキ義務ヲ有ス

八、發註セル獨逸國生産品ニ對スル代金支拂ハ發送準備整ヒタルトキニ爲サルルモノトス

康德十年十月十一日即一千九百四十三年十月十一日新京ニ於テ本誓
二通ヲ作成ス

クレディット延長ニ關スル交換公文

以書翰啓上致候陳者本使ハ本國政府ノ訓令ヲ基キ滿洲國政府及獨逸國政府間ノ左ノ申合ヲ確認スル光榮ヲ有シ候

一滿洲國及獨逸國間經濟關係存續ノ爲ノ第三次協定ノ署名延引セル爲一方協定有効期間内ニ第一條ニ基ク義務履行不可能トナリ他方之ニ應シ協定第二條ニ依リ供與セラレタルクレディットモ一九四三年十一月三十日迄ニ全額使用シ得サルニ因リ滿洲國政府及獨逸國政府ハ第一條ニ於テハ右期間後ト雖モ遲クモ一九四四年六月末迄ニ行ハレサルニ於テハ右期間後ト雖モ遲クモ一九四三年十一月三十日迄ニ全額使用セラレサルニ於テハ右期ヲ後ト雖モ實際供給額ノ範圍内ニ於テ引續キ一九四四年六月末迄請求セラレ得ル様措置ヲ講スルコトニ合意ス

本使ハ茲ニ書翰ヲ閣下ニ向テ致意ヲ致シ候

敬 具

第四次協定ニ關スル覺書

滿洲國及獨逸國間經濟關係存續ノ爲ノ第三次協定ニ引續キ締結セラ
ルヘキ協定ニ關シテハ獨逸側カ一千萬馬克ノクレヂイットヲ供與ス
ルコトヲ條件トシテ滿洲國側ハ阿片三十噸ヲ供給スヘシ
尙滿洲國側ハ右阿片ヲ若干追加供給スル用意アリ

康德十年十月十一日

滿洲國緊急農地造成計畫ニ對スル協力
援助ニ關スル件

一八一、二三二
閣議決定

第一方 針

列下ノ緊迫セル食糧ノ需給情勢ニ鑑ミ滿洲國ニ於ケル既定食糧増産計畫ノ強力ナル遂行ニ期待スルハ勿論更ニ此ノ際同國ノ緊急農地造成計畫（以下計畫ト稱ス）ノ達成ニ積極的ニ協力シ確實ニシテ效率的ナル主要食糧ノ増産ヲ圖リ以テ日滿ヲ通スル主要食糧ノ自給態勢強化ニ資センコトヲ期ス

第二 要 領

- 一、計畫ニ包含サルヘキ農地ノ造成面積ハ第二松花江地區田五〇、〇〇〇陌及東遼河地區田二〇、〇〇〇陌並ニ既着手計畫中繰上實施スルヲ適當トスル地區田三九、〇〇一、九陌畑七〇、八六ニ陌總計一、七九、八八一陌トス

計畫ハ昭和十九年ヨリ事業ニ着手昭和二十年末迄ニ完成セシムル
ヲ目途トス

一、開田開畑後ノ生産物ハ生産者ノ自家消費ヲ除キ全部ヲ對日供給

ニ追加スルモノトス

二、所要資材及機器中日本側ヨリ供給スヘキモノハ左ノ通トス

イ、農地造成改良用資材及機器ニ付テハ昭和十八年度分ハ別表第

一ニ計上セラレタル數量ニ概定ス昭和十九年度以降ノ分ニ付テ

ハ別表第一ニ計上セラレタル數量ヲ斟酌シ別途檢討ノ上之ヲ決

定スルモノトス

ロ、別表第二ニ揚ケラレタル開墾用資材及機器ニ付テハ機械開墾

又ハ畜力開墾ノ可否ヲ検討シタル上毎年度物動計畫策定ノ際特

ニ考慮スルモノトス

ハ、營農用資材ハ一般營農用資材ニ含メ毎年度物動計畫策定ノ際

考慮スルモノトス

- 四 農地ノ造成改良費ニ付テハ日本側ヨリモ約五割程度迄ノ補助ヲ得
スコトトスルモ其ノ負擔率竝ニ援助方法ハ現地側ヨリ詳細ナル資
料ノ提出ヲ俟ツテ關係應ニ於テ別途協議決定スルモノトス
- 五 日本側ヨリノ技術者ノ供出ハ極力現地側ノ要望ニ副フコトトシ派
遣方法ニ付テハ關係應ニ於テ考究スルモノトス
- 六 農地ノ造成改良ニ必要ナル勞力ハ原則トシテ現地側ニ於テ調達ス
ルモノトス

第三 措 置

- 一 所要機器中揚水機（口径一、五〇〇糎）及原動機（六〇〇馬力）各
一二基ハ明年末迄ニ完成セシムル要アルヲ以テ其ノ素材ハ別表第
一ノ昭和十八年度ニ計上セルモノハ本年廢物動計彙ヨリ追加配
當シ明年早々ヨリ製作ヲ開始シ得ル様特別ノ措置ヲ講スルモノトス

二、所要機器中一般工專用品貯水池工專用品機器ニ付テハ可及的現有
機器ヲ動員シ得ル様措置スルモノトス

別表

第一 土地造成改良用資材及機器

1. 所要資材(單位碼) 揚水機 口径 一、五〇〇馬力 各三〇台分素材子金

種別	昭和十八年度	昭和十九年度	昭和二十年度	合計	備考
鐵	1006	10361	3388	14855	
銅	32	241	15	288	
錫	3	5		8	
鉛	1	495		506	
アルミニウム	3	34		37	
亜鉛	3	134		137	

潤滑油	石油	重油	揮發油
五六	二一八	一六六	二六三
五七	二三〇	一六七	二五九
一一三	四四八	三三三	五二一
			(單位 軒)

第一 土庫...
 第二...
 第三...
 第四...
 第五...
 第六...
 第七...
 第八...
 第九...
 第十...



ロ、所要機器

(一) 土地改良施設用機器

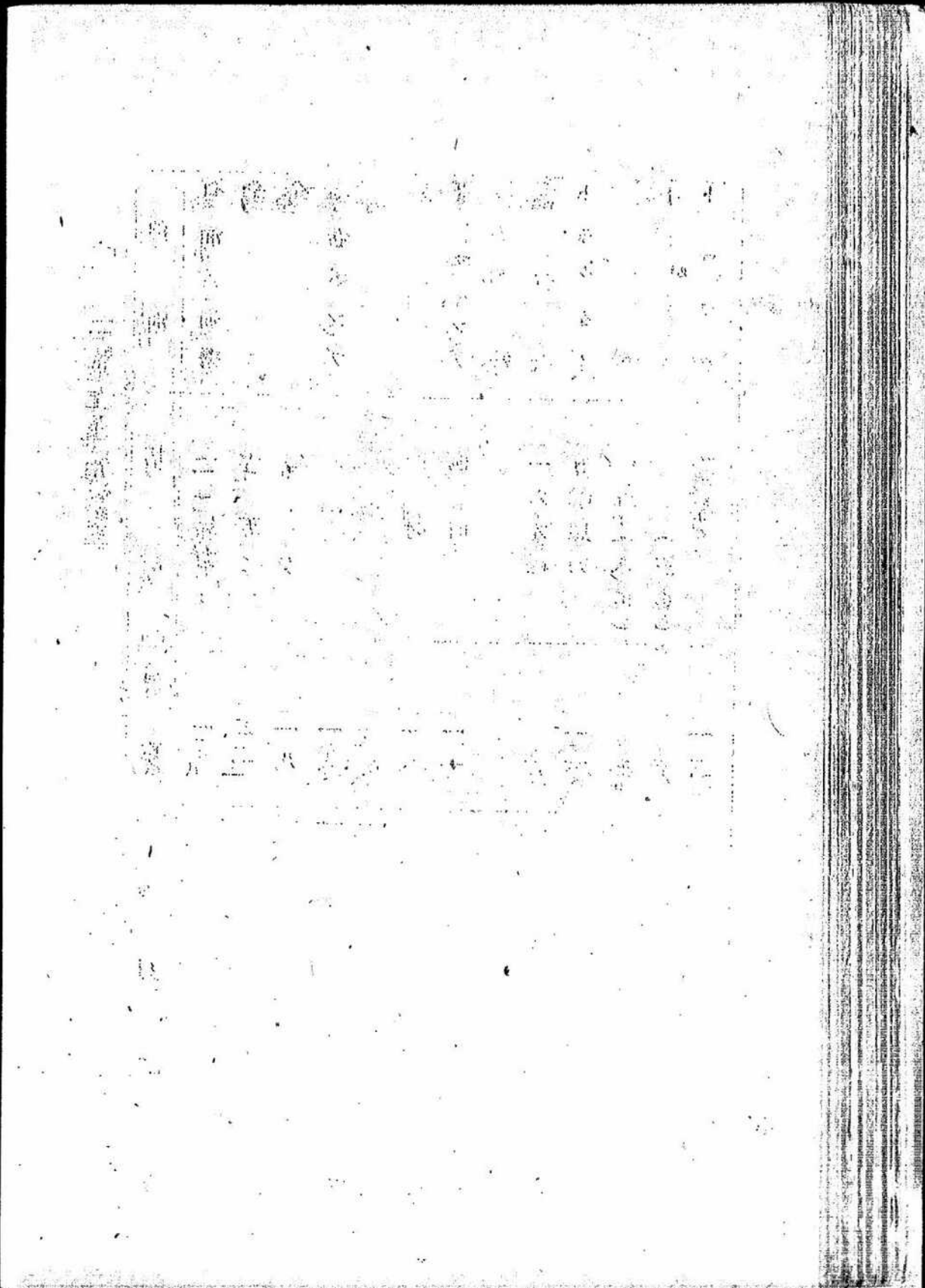
種別	仕様	員數	備考
揚水機	渦巻ポンプ 口径七五〇 耗	三〇台	本物件ニ關シテハ第一表イ 所要資材中ニ素材計上ス
原動機	六〇〇馬力	三〇台	

(二) 一般工事用機器

種別	仕様	員數	材量
石油發動機	一二馬力	一八	
全全	七、五	一一	
全全	五	一八	
渦卷ポンプ	六吋	一八	
全全	五吋	一八	
全全	四吋	一八	
ダルマポンプ	四吋	一	
浚漑機	一六才線	三	
混合機	五〇馬力	六	
トラクタ	一五 (八屯)	四	
捲揚機	一五 (八屯)	四	
手動捲揚機	一五 (三屯)	五	
ト	二五	一三	

(三) 貯水池工専用機器

種別	仕様	員数	素材量
混合機	投込定置式二一才線 移動式一六才線	六	
鑿岩機	ドリフターインカール 二六號	八	
空	シング三九封度 インカールLRW四三〇	二〇	
空氣壓縮機	東洋二號	一	
空	空 八號	一	
鋼管	内徑六吋	八〇〇米	
空	四吋	一、一〇〇米	
空	三吋	五〇〇米	
空	二吋	一、五〇〇米	



全	全	渦巻ポンプ	トラクター
三	四	六	二五馬力
時	時	時	
四 六 五 四			

第二 開墾用資材及機器
 (一) 開墾ニ要スル機器

年度別	機械開墾用 (十二割)		畜力開墾用 (八割)			
	加開 面積	面積	能率 下ラク	プラウ ハロー	能率 ハロー	馬匹 數量
昭和九年度	五五二九七 陌	一七〇六〇 陌	九〇日作 業一臺 二〇八 陌	四四二七 七	九〇日作 業一臺 一〇八 陌	六八〇 九 四 二〇
全 二〇年度	三九〇三二	七八〇五	・	四四四 (五四二)	・	四四七 (五三八)
計	九四三一 九	一八八六 五	一七六	一七六 一七六	七五四 四	一〇四 九 (三二〇)

備考 畜力用括弧内ノ數量ハ全部畜力ニ依ル場合ヲ示ス

年度別	開墾面積	重油		油		揮發油		潤滑油	
		陌當數量	立	陌當數量	立	陌當數量	立	陌當數量	立
昭和一九年度	一一〇六〇	四五	立	四九八	立	五〇	立	三三	立
全二〇年度	一八八六四	、		八四九		八五		四三	
全二一年度	六〇五三	、		二七三		一八		一四	
合計	三三九七七	、		一六二〇		一六三		八二	

(二) 開墾ニ要スル資材 (單位 軒)

昭和十八年度第二、四半期（四一六月）對滿資金供給計畫
 昭、一八、三、二六
 大藏省決定
 （單位千圓）

銘柄	新規資金		公社債發行		前貸	貸期首前	貸期末前
	要求	査定	新規	振替			
一、公社債	0	0	0	0	0	0	0
滿拓公債	300000	300000	200000	0	100000	0	100000
滿業	200000	0	0	100000	0	100000	50000
本溪湖	150000	0	0	50000	0	150000	100000
滿炭	0	0	0	0	0	300000	200000
昭業	150000	0	0	50000	0	100000	50000
電業	200000	0	0	50000	0	50000	0
興銀	150000	100000	100000	0	0	0	0

總計	二雜	公債債計	滿化	滿鐵	滿礦	電々
三九八五〇〇	一四〇〇〇〇	二五八五〇〇	〇	一四〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一五五〇〇
1150000	1000000	1500000	〇	1000000	1000000	〇
		1400000	〇	1000000	〇	〇
		3000000	500000	〇	〇	〇
		1700000	500000	1000000	〇	〇
		1000000	〇	〇	〇	〇
		7500000	500000	〇	〇	〇
		5500000	〇	〇	〇	〇

備考 滿業振替發行一〇〇〇〇千圓中五〇〇〇千圓ハ滿炭振替
代位 + 〇

公債債計	公債	所業	本業	儲蓄	附屬	營業
3985000	1400000	2585000	0	1400000	1000000	155000
1150000	1000000	1500000	0	1000000	1000000	0
		1400000	0	1000000	0	0
		3000000	500000	0	0	0
		1700000	500000	1000000	0	0
		1000000	0	0	0	0
		7500000	500000	0	0	0
		5500000	0	0	0	0

昭和十八年度決算一覽表(別表)一覽表(別表)一覽表

三 雜

內 譯

滿拓政府拂込	八、一、二、五
密山炭礦拂込	一、三、五、〇、〇
滿洲合成燃料拂込	六、六、〇、〇
滿洲電業借入	二、〇、〇、〇、〇
滿洲投資證券借入	一、五、〇、〇、〇
琿春炭礦借入	二、〇、〇、〇、〇
滿洲曹達借入	三、〇、〇、〇、〇
南滿洲瓦斯借入	一、六、八、〇、〇
滿洲電化設備資金	五、九、〇、〇、〇
計	七、三、八、〇、五
其他	二、六、一、九、五

100000 千圓



昭和十八年度第三、四半期（七月九月）對滿資金供給計畫
 昭一八六三三
 大藏省決定

（單位 千圓）

銘柄	新規資金			公社債發行		前貸 期首前 貸殘高	期末前 貸殘高
	要求	査定	新規	振替	計		
一、公社債	100000	0	0	0	0	0	0
公債	100000	0	0	0	0	0	0
滿拓	300000	200000	100000	0	100000	0	100000
滿業	200000	100000	100000	0	100000	0	100000
本溪湖	100000	0	0	100000	100000	0	100000
昭業	0	0	0	100000	100000	0	0
電和	200000	100000	100000	100000	300000	0	0
興銀	100000	0	0	0	0	0	0
電友	0	0	0	0	0	0	0
滿鴨	100000	0	0	0	0	0	0
滿錢	100000	0	0	0	0	0	0

昭和十八年度第三、四半期（一〇—一二月）對滿資金供給計畫

昭和十八年度第三、四半期
大藏省決定

（單位：千圓）

銘柄	新規資金		公社債發行		前貸	期首前 貸殘高	期末前 貸殘高
	要求	査定	新規	振替			
公債	1,500,000	1,500,000	0	0	1,500,000	0	1,500,000
滿拓	3,000,000	3,000,000 (内 外 2,000,000)	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
滿業	1,000,000	0	0	1,000,000	0	1,000,000	1,000,000
本溪湖	0	0	0	0	0	1,000,000	1,000,000
龍業	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	0	0	0
興業	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	0	0	0
計							

額	八〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	〇	八〇〇〇	〇	〇	〇
満	四〇〇〇	三〇〇〇	五〇〇〇	〇	五〇〇〇	一〇〇〇〇	〇	一〇〇〇〇
公積	一三〇〇〇	一〇八〇〇	七〇〇〇	五〇〇〇	九八〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	四〇〇〇〇
種	九六二五〇	五〇〇〇〇						
計	二三四二五〇	一八八〇〇〇 (内株外 一〇〇〇〇〇)						

備考 一、満拓ノ新規資金査定額ハ三〇〇〇〇千圓ナルモ内一〇〇〇〇千圓ハ四一六計
 畫線越額(前貸中止)之差カモノヲ以テ充當スルモノニシテ從テ右二〇〇〇
 〇千圓ハ本計畫ノ株外扱トス

二、満鐵新規資金要求四五〇〇〇千圓ハ之ヲ三五〇〇〇千圓ニ査定シ差額一〇〇
 〇〇千圓ハ現地ニ於テ中銀ヨリノ借入ニ依ラシム

三雜

內譯

其	滿洲	滿洲	滿洲	密山	滿洲
他	鉛	電	鴨綠江	炭	鐵
	礦	線	水	礦	拂
	拂	拂	電	拂	達
	達	達	拂	達	達

八〇〇〇〇 千圓

三八〇〇〇

一二五〇〇

六二五〇

二五〇〇

五〇〇〇

一五七五〇

昭和十八年度第四、四半期（昭和十九年一―三月）對滿資金供給計畫
 昭、一八―三、二四
 大藏省決定

（單位 千圓）

銘柄	新規資金			公社債發行		前貸	貸期首前		貸期末前								
	要	求	查	新	規		振	替	計	貸	期	首	前	貸	期	末	前
一、公社債																	
公債	0	0	0	0	15000	15000	0	15000	0	0	0	0	0	0	0	0	0
滿、拓	11000	11000	11000	11000	10000	11000	0	10000	0	0	0	0	0	0	0	0	0
滿業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本溪湖	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
興銀	10000	10000	10000	10000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

電 力	満 鐵	關 東 州 住 宅 營 園	公 社 債 計	二 雜	總 計
0	200000	20000	66000	100000	166000
0	100000	10000	33000	67000	100000
0	100000	10000	10000		120000
0	100000	0	10000		110000
0	100000	10000	60000		170000
0	0	0	10000		10000
0	100000	0	50000		150000
0	0	0	100000		100000

備考一、滿鐵新規資金要求四〇、〇〇〇千圓ハ之チ一〇、〇〇〇千圓ニ
 査定シ差額三〇、〇〇〇千圓ハ現地ニ於テ調達セシム
 二、雜口資金ニ不足ヲ生ジタル場合ハ若干枠ノ増額ヲ認ムルコ

NOTE

1937年10月1日現在
 電力 0
 満鐵 100,000
 關東州住宅營園 10,000
 公社債計 66,000
 二雜 100,000
 總計 166,000

二 雜
内

- 東洋タイヤ工業増資
- 康徳鋸業事業資金
- 琿春炭礦株式會社事業資金
- 滿洲電化設備資金
- 滿洲合成ゴム工業設備資金
- 滿洲鋸業汽船拂込
- 滿洲豆稈バルブ拂込
- 三菱マグネシウム拂込
- 其ノ他

六七〇〇〇千圓

四七七五 千圓

一五〇〇

二四九〇

一二五〇

二〇〇〇

一七五〇

一七五〇

三七五〇

四七七五